

大切な小さな命

四年 倉田 晴

ぼくの家には、二ひきの動物がいます。一ひき目は、ジャンガリアンハムスターの女の子の、ハイミーです。おむかえする前ぼくは、お父とお母さんにハムスターをかつてもいいか相談しました。すると、かうことを反対されました。どうしてか聞くと、かい方を知っているのか、どんな物を食べるのか、どんな物が必要なのか、どのくらいお金がかかるのかなど、質問されました。そう聞かれてインターネットや、図書館の本や、図かんなどでそれらについて調べました。もしあのまま何も知らずにかい始めていたら早く死んでしまっていたかもしれません。なので、しっかり調べてよかったと思っています。

二ひきめは、キャバリアキングチャールズスパニエルという犬種の、名前はチャーリーです。チャーリーをおむかえする前かっていた、えいとという名前の男のこでポメチワの大切な家族がいました。十才だったえいととは、今年の五月に空へ旅立ってしまいました。ぼくがお母さんのおなかにおいて、成長を見守ってくれていました。ぼくにとって、かけがえのないそんざいでした。えいとがいない間とてもさみしくて、悲しくて、思い出すとなみだが出てきます。犬というそんざいは、ぼくにとって家族そのものなのです。

新しい家族のチャーリーは、まだ五か月のパピーなので手がかかります。けれど、いっしょに生活することで少しずつでき事がふえてきて、その成長していくすがたを見守って楽しんでいきます。えいとがぼくの成長を見ていたように、今度は、ぼくがチャーリーを見守る番です。

ぼくの家族の二つの小さな命が少しでも長く続くように二ひきの世話をしたり、二ひきがかいてきにくらせるように、動物について知るどりよくを図書館の本・図かんやインターネットで調べていきたいと思っています。